

ロシア為替週報

2022 年 2 月 21 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(2 月 12 日～2 月 18 日)

USD/RUB: 74.840～77.375

過去 1 週間のロシア・ルーブル相場は、対ドルで、77 台から 75 を上抜ける上昇の先行から、再び 77 を割り込む反落。16 日の膠着を除くと日々の値幅はそこそこ出ている。これは、並行した原油価格の乱高下を反映した値動きと考えることもできただろう。もっとも、原油の乱高下もルーブルの上下動も、元を質せばウクライナ情勢の混乱を要因とした反応だったので、ルーブルの上下動を、直接、ウクライナ情勢を材料視した値動きと見做すこともできた。ウクライナ情勢は混沌。15 日には、「(演習を終えた)一部部隊が所属基地に帰還し始めた」とロシア側が発表。緊張の緩和はルーブルの上昇につながったが、西側は「帰還は確認できない」とロシア発表を一貫して否定。米が「早ければ(ロシアが)軍事行動に出る」と警告した 16 日は、とりあえず無風に過ぎたが、これを米情報当局の「不正確な情報」と見做すのは的外れと言えただろう。米(西側)にしてみれば、ロシアの軍事的脅威を殊更深刻に捉えることで、「それに対する(軍事面、経済制裁などの)備えがある」ことを示威できたはずだし、それを「抑止力になった」と評価することもできたはずだからだ。息をのんで見守った 16 日(従ってルーブルは小動き)が無風に過ぎたことで、ルーブル上昇余地が広がる可能性も考えられたはずだが、17 日以降、情勢は急展開。ロシア側から、「ウクライナ東部の反政府勢力(分離独立派)がウクライナ軍の砲撃を受けた」「(親ロシア派住民の)虐殺が行われている」との主張が聞かれたことで、一気に緊張が高まった。実際のところは現在まで確認できていないが、これを「ロシアがウクライナに侵攻するための『偽旗作戦』」と解説する西側の報道が目立ったこともルーブルの重石になったことだろう。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/14	8:30	国民福祉基金残高(USD)	1 月	174.9bn		182.6bn
2/18	16:00	年間 GDP	2021	+4.7%	+4.5%	-2.7%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(2 月 19 日～2 月 25 日)

USD/RUB: 75.50～78.50

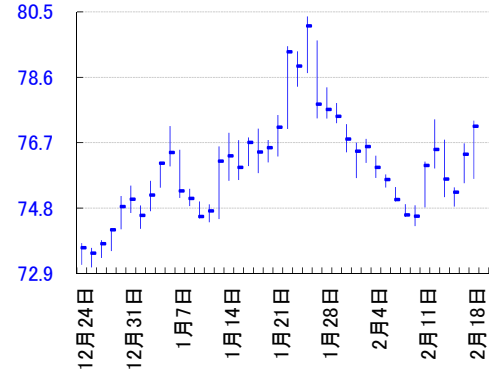
向こう 1 週間のロシア・ルーブル相場は、引き続きウクライナ情勢次第。北京オリンピックが閉幕し、ロシア/ベラルーシ合同演習が終了することで(いずれも 20 日)、向こう数日がひとつの山場になるのは間違いなからう。西側が殊更ロシア軍事侵攻の脅威を煽るのは、上述した通り、それが実際の軍事行動に対する抑止力となることへの期待感もある。また、2014 年にクリミア併合を許した反省に基づく、西側からロシアに向けた攻撃的な情報戦略と位置付けることも可能かと思われる。それでも、万が一、ロシア軍がキエフに侵攻したとして、その目的が制圧だけで果たされるとは到底思えない(注)。占領状態を維持して、親ロシア政権の樹立/反ロシア派(ゲリラ?)の駆逐までが最低限の目的となるはず。その実施に必要な人的/経済的費用の膨大さに鑑みて、キエフ侵攻を含む全面攻撃などとても考えられないのではないかな。あるとしたら、反政府派の掌握する東部二州への侵攻、或いはクリミアまでの陸路を確保するためのアゾフ海沿岸地域への侵攻までと考えていたが、ロシア側が「ウクライナ軍が反政府勢力を砲撃」と主張し始めたことで(上述)その蓋然性は飛躍的に高まったと言わざるを得ない。ロシア国内世論も、17 日以降急変しており、従来、軍事侵攻に「ほぼ無関心」と言えた世論が、「(ロシア同胞保護のための)軍事侵攻あり得べし」という方向に大きく傾き始めたと聞く。もうひとつ留意しておきたい要因は、15 日にロシア下院が採択した決議。その是非はプーチン大統領に一任されたが、仮に、決議に従いウクライナ東部二州をロシアが国家として承認することになれば、その意味するところは、「プーチン大統領が外交(ミンスク 2 などに基づく)交渉を断念」「(独立国家である)東部二州にロシア(正規)軍を駐留させる意向を固めた」ということになるのではないかな。なお、上述予想の数字は、ウクライナ情勢の膠着(武力衝突なし)を前提としている。

＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/25	16:00	鉱工業生産(前年比)	1 月		+7.8%	+6.1%

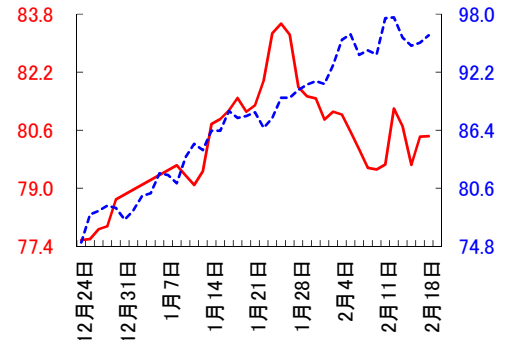
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUB の推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)

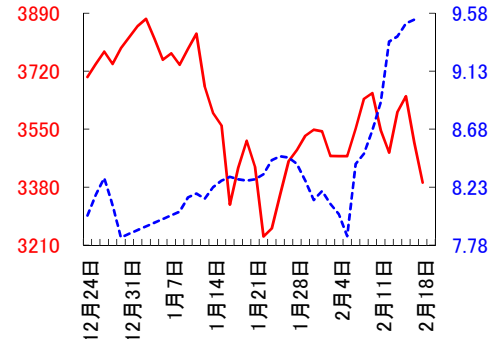


株ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示)

原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX 指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1 週間物入札金利		9.50%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+4.3%
失業率	12 月	4.3%
消費者物価(前年比)	1 月	+8.73%
小売売上高(前年比)	12 月	+5.4%
鉱工業生産(前年比)	12 月	+6.1%
貿易収支(USD)	12 月	+26.7bn

(注) 例えばその都市インフラを完全に破壊して撤退したとしても、ロシアに得られるものはほとんどなからう

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。